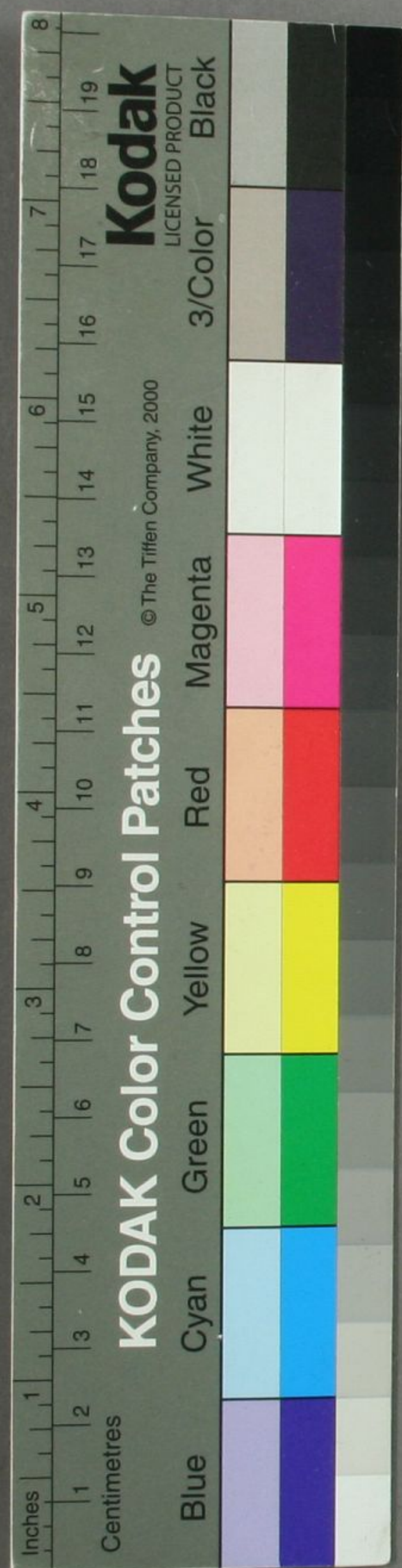




中村俊定文庫
文庫 18
801



文政四 定雅

俳諧書心すみ

寶此鼎了句を煉く就そ
るの文字を治ふと他の方
うあふゆのきうの性や
後乃盗人を侍とのう物栗
を始とて天和のうを線乃
頃まてあふたのうのう一様
るうのうを窓ふけのうの
也ーうをまてのうのう



けしきをかかれ暮しの事いふを
着やうけさく習ふ所のこと
まゝに此書をぬきかへるや
他仙臺下はかゝるを連

文政三年九月朔

月居
~~義~~

自序

大和うゑの代に凡調あり唐う
ゑ又かゝる代に俳諧も代に
凡義わの代に支流ありく
まゝ蓮門の一派大をこなせし
るといふもこれ又一調あり
天和貞享え録ありくきかひあ

てつ羽と天の比いさゝ檀井お
風俗まゝとくま子おまやうに風のほそ
―たをいそまゝいそまゝいそまゝ
貞享おまゝと初のはなをいそまゝ巧
言曲節おまゝとくま子おまゝと録
いそまゝと正規おまゝ―思ひ初めを
道をきいそまゝいそまゝと録まゝと

机おまゝとつたおまゝとつたおまゝと
いそまゝとつたおまゝとつたおまゝと
さゝまゝとつたおまゝとつたおまゝと
風調をいそまゝとつたおまゝとつたおまゝと
侍おまゝとつたおまゝとつたおまゝと
をいそまゝとつたおまゝとつたおまゝと
とつたおまゝとつたおまゝとつたおまゝと

て遊あはれとあはれ月更らいつた
 古人の夕城登覧といふは古人
 此あはれたうはれぬとあはれ
 わは詞ゆきまうとわはれとあ
 あはれとあはれとあはれ

俳仙堂
 定雅
 一七



俳仙堂と寸み

梅里
 維石
 著



虚栗姑風洞子倣子

云花と化して暑うは天は是の都

天よはな一 笑市山川

鶴の骨三子丈は春哉えと

昇 飛 行 加 る 子 仙 術

月の 材 ま げ る 一 乃 水 又 攀 け る 人

恨むのちう 唐 萩 乃 萩

夕田大

其頁コ

天也 一五

浪
口土

乳

夢

才茂
如

億

匏

5
6

73

电子

漢

草

力

三

庄子曰五石之瓢 愚と家

蘭を欺妓女は 埒

星おき、小次郎の答を文て

つれづれと暮るるをき不

はる 吾れは 白旗を橋をきむらん

佛の土う 年 新尸

清久流松明の節ちぬる以

愚海思ふ 舟を吞音

縣 巫女秀白法師伊勢を食

貨の 樟葉は志はせ三味線

目を末ニ 皆ち配交 新家参り

湯の 湯の 禁 眠 臥 着

去の 菜 時ふふふと 風なふふふ

春 ぬるるるる 船 乃 魚大

冬 終 日

霜 雪 交 加 幽 情 を 惹 起 せ

雨 止 ぬ 雲 霧 交 加 幽 情 を 惹 起 せ

春 の 白 雪 交 加 幽 情 を 惹 起 せ

長 夜 交 加 幽 情 を 惹 起 せ

鄙 方 交 加 幽 情 を 惹 起 せ

月 夜 交 加 幽 情 を 惹 起 せ

更 々 交 加 幽 情 を 惹 起 せ

む 乙 玉 楚 國 新 美 夢 夢 初 見

あ 髪 あ け て 赤 け 喪 入

顔 月 越 高 一 柳 交 加 幽 情 を 惹 起 せ

月 交 加 幽 情 を 惹 起 せ

親 治 桶 師 都 交 加 幽 情 を 惹 起 せ

三 子 交 加 幽 情 を 惹 起 せ

舞 の 代 乃 之 日 越 高 一 柳 交 加 幽 情 を 惹 起 せ

あ ち ぬ 夢 交 加 幽 情 を 惹 起 せ

小文の^いま^えめ^え書道^をか^く
富^ミの^さ之^し一^し鯉^り取^り家^か
二^に度^どか^か一^し丁^{てい}の^さめ^め取^り家^か
ち^ちく^く一^しめ^め又^{また}眉^{まゆ}く^くめ^めめ^めめ^め
土^ど筆^筆
其^{その}原^{はら}く^くお^おま^ま社^{しゃ}村^{むら}は^はろ^ろ取^り
屋^やの^の灯^{とう}ほ^ほそ^そく^くま^まま^ま取^り
負^おて^て旅^{りょ}れ^れ食^をと^と世^をを^を思^をひ
父^{ちち}近^{ちか}の^のま^ま又^{また}休^{やす}免^くと^と位^{くらい}

目^めめ^めこ^こハ^ハイ^イカ^カ乃^{なり}啼^なは^はり^り
さ^さい^い一^しき^き煙^{えん}々^々そ^そい^いく^くそ^そち^ち
加^{ヨシ}み^ミた^タよ^よな^なと^とれ^れは^は一^しき^き
様^{よう}お^おり^りれ^れ武^ぶ若^わ又^{また}恋^{こひ}初^{はつ}
め^め又^{また}折^せ文^{ぶん}字^じあ^あれ^れな^な
字^じは^はれ^れた^たつ^つの^のと^とあ^あれ^れた^た月^{つき}
三^{さん}尺^{せき}は^はれ^れた^たと^とあ^あれ^れ入^いる^る
昔^{むかし}を^をゆ^ゆめ^めを^をあ^あれ^れ向^{むか}ふ^ふ

伽^に 延^に 佛^に 名^に 村^に 乃^に 世^に 日^に 茶

唐^に 悔^に 乃^に 乃^に 基^に 乃^に 聖^に 乃^に

何^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に

松^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に

乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に

四^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に

ひ さ こ い

あ 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に

乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に

唐^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に

乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に

乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に

乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に 乃^に

軟 之 砂 走 一 軟 走 うち 何 せ し
勝 手 如 才 哉 か 一 衛 之
前 臺 の 傍 紫 同 士 袖 ぬ ぎ ち
あ め 鳥 一 一 待 候 ち 月
於 む 一 一 馬 追 ち 一 一 等 ち 一 一
楠 い 一 一 み 一 一 一 一 一 一 一
小 ぎ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
力 な ぎ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

世 話 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
果 然 子 存 乃 走 一 一 一 一 一
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
舟 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
み 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
女 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

我恋ぢよれへ人を媒と
ふり競ふ加茂ぢきんし記
かゝのほし舟船さしに威をうて
そを敗る浪ぢ立合
風ぢ中より月乃うにあらは
捨てふ子を拾ふ厄年
土急師大蔵屋や代古く
月ぢううれけけけけけけ

ナリ
さし情くお垣めく水ぢき
休るれれれれれれれれ
中へに賢ぢ人々愚え
内うううううううう
天う下ふううううう
鯛ささささささささ

猿蓑、

秋庵や鄭公をむも秋を——
 分根牡丹の何とれなふ花
 群るに菊のいすの餌拾ひて
 山崎さ——集とあふ大又井や
 月秋馬士の時の言士の那ア
 心まゝ握る之百の秋

野送りの詞な大す揃ひ市村
 田力此乳をさゝふみより思
 高市秋採織小唄秋共かゝに
 勢乃使れ道くも恋心
 人毎又未だ松山偲りて
 よくも懲さる五月の月
 ほろりと汐れく木まに鄭丹
 生れく多れ市子情

奉る能くうち下席の名を付し

去れ其れをねて一なり

世の中、秋なりはすゝは花のやう

荒し、餘り草、咲く

信成、その影衣なうら風は禁て

昔、弱むさへ、松そき山里

糊、桶は、鳥か、うら、店、け、え

精進、の、お、月、ま、に、人、の、親

貴てき、家、娘と、祝ふ、仙、鈴

地、友、い、切、ても、又、め、は、る、さ、の

お、め、う、さ、娘、は、海、客、と、降、つ、り

確、て、換、正、月、ち、餅

か、の、手、取、な、み、は、牛、と、書、入、て

あ、う、さ、ね、内、り、死、人、か、ぎ

年、く、に、良、夜、と、い、う、き、き、り、か、ち

茅、萱、は、中、に、二、の、神、子、う、ち、か

ゆゑ形化す朽腐えし嗟嘆人形
油を枯れタッわひしに
志はかりやをさても朽れし雨を
尻居て啼きあふのうらみ
綿さるふえし交れ苔衣
春いふ世にさるるを
中

すゝ徳、

こほりし枯れさるる
こほりし枯れさるる
橋を清仕^廻仕^廻事^廻に松明焚て
菜と肴とお酒一萬
とんこつや名月：旅の風
何處を流るるの歌はさるる

状のあふ斗れ横わゑ

ひとくは利く津山伏

おねへし小鉄の流るみほ店

今に才け肺気好常

よう安くかなほへる常門品

夜をなすくま栴旬を

まは月寝ハ果無荷をほにかさね

侍うせ流吹くを庭階風

柔話ハ大坂原をくらおほえ

縁付ーてもふお甲子

奢ふと辛樂まうけ居る所

捨細ハも芽おそ早願

七代ハ十日居るむぬあ寺

捨てつんけと書てふさぐり

勘定うすめハ板食平とやかく即

水きふ越る本強荷

請合ふてあふるに雨ハ降出し

をく明てとさわく霞

本模垣障の識を立つて

古や一の杖に二交をりて

明窓のお庭はくあふ日見

之園の中は尻毛ぬが

何をもたすなるちひと

泊又乃あふあしに

ナリ

立作るえと忘る小服を

衣ゆのたくる定宿舟

埒のよい服ち余命にうち

計の余り改田余や

飛さかハ十八夜を子希

常志をやうに水あむ

文政四年己春

仇仙事之於獨處

俳僊堂藏板

昭和十四年八月二十日
鳥居 昭字 文庫

校合了
俊定

